夏休みスペシャル・小奴可の里自治振興区・読書感想文まつり

たべたいな　お月さんのシャーベット
一年　木下　歩

『お月さんのシャーベット』をよみました。あつくてあつくてねむれないよる　お月さんがとけてしまった　ふしぎなおはなしでした。

あついあついなつのよるのことです。お月さんが　とけだしました。おばあちゃんは、たらいをもってきて　それをうけました。それをシャーベットのかたに　ながして　れいとうこに入れました。しばらくすると　クーラやせんぷうきがつけっぱなしだったのでアパートのでんきがきえて　まっくらになりました。ていでんです。みんなは　あかるいはんちょうのおばあちゃんのおうちにいきました。そこは、お月さんのシャーベットのおかげで　あかるかったです。もともとお月さんはひかってあかるいのでシャーベットになってもあかるいんだとおもいました。アパートのみんなは、お月さんのシャーベットをたべてあついのがすうっとすずしくなったので、クーラもせんぷうきもきってまどをあけてぐっすりとねむることができました。みんなねむれてよかったです。でもいちばんこまったのは、うさぎさんでした。もちつきをするいえがなくなったのです。でもおばあちゃんが、お月さんのしずくで月見そうの花をさかせました。まっくらなよぞらに　お月さんがさきました。うさぎさんは、おどってかえっていきました。あたらしい月のおうちができてうれしかったとおもいます。

ぼくは、よるあつい日があるし、あたまがぐらぐらすることもあるので　つめたいお月さんのシャーベットをたべたいです。

『クワガタムシ』を読んで
2年　長谷　希琉

ぼくは、家でヨコクワガタをかっているので、この本を読んでみようと思いました。

この本は、クワガタのそだてかたや、えさなどが、くわしく書いてあります。心にのこったことは、クワガタムシのかい方です。クワガタムシのだいすきなえさのことが、よくわかりました。この本を読んで、かっているヨコクワガタを、これからも大切にしたいと思いました。

『ダイアナ』を読んで
3年　柳楽　葉奈

私は、ダイアナが、こまっている人がいたら、ゆう気づけたところが好きなので、この本を選びました。

この本のお気に入りのところは、ダイアナが、弟のチャールズを、なぐさめてあげるところです。理由は、やさしいと思ったからです。また、本を読んでわかったことは、つらい思いを感じているのは、みんなだということが分かりました。

この本を読むと、がんばっているみたいな気持ちになります。なぜかというと、皇太子にさけられても、ずっと、その気持ちをかかえていたからです。

これからも、歴史の本を読んでいって、高学年になったときに役にたてたいと思います。

『作家になりたい！』を読んで
4年　宮本　香菜

私は小説が好きなので、この本を選びました。この本には、恋愛と作家になるヒントが書いてあります。この本は、一巻から十二巻まであります。ことわざや、はい句などのことがのっています。

私は、特に八巻の「ことがわざ」が好きです。わけは、今、名文あんしょうに、ことわざが、のっているからで、この本でことわざをたくさん覚えたいので選びました。

好きな場面は、五八ページの主人公、宮永未央がことわざの、「のうあるたかは？」を「はげをかくす」。「犬も歩けば」を「およぐ」。「かえるの子は」、「おたまじゃくし」と答えたのがとてもおもしろくて好きです。

この本を読んで学んだことを国語の勉強に生かしていきたいなと思いました。

『ファーブル先生の昆虫教室』を読んで
4年　牧田　詠伍

ぼくは昆虫が好きなので、この本にしました。

この本のお気に入りのところは、カマキリの研究をしているところです。理由は、ぼくは、昆虫の中でもカマキリが好きで、この本ではカマキリの研究をしていたから、いいなと思いました。

ぼくは、「ファーブル先生の昆虫教室」のちがう種類の本が学校にあったので、ぜひ、読みたいと思いました。

『オリエント』を読んで
5年　倉橋　晴哉

僕が、この本を選ぼうと思ったきっかけは、昔のことや歴史人物にとてもきょう味があったからです。

このお話は、最初に鬼がとつぜん現れ、名だたる武将達が、倒されたというところに、読んでみるとととてもおもしろく、かっこいい文章がありました。

僕がこの本の中で一番心に残ったところは、主人公のむさしに、天下をとるという夢がありましたが、その町では、武士はてきと言われていて、将来は鉱夫になると言って過ごしてきました。ある日、鉱夫の見学で初めて目にしたのが鬼でした。友達は、こしがぬけてすわりこんでいましたが、むさしだけは立っていました。

そして、「おれは知ってたぜ！　やっぱり鬼はてきで、武士は味方なんだ。倒してやる。自分のかまで！」

ところが、かまはどこにもなく、先に、門であずけたのを、わすれていたところがいんしょうに残りました。そして、最後にむさしは、「天下めざして鬼と戦う。」といい、ここがすばらしかったです。僕はこの前向きの考えができないで、ここを見習っていきたいと思いました。

『天国の犬ものがたり～天使の名前～』を読んで
6年　河上　実咲希

私が読んだ本は、『天国の犬ものがたり』です。この本は一冊に4話の物語があって、その中でも、『二人のぽっぽ』という話が一番印象的でした。この話の主人公は、ぽっぽという犬です。ベランダに鎖でつながれた犬のぽっぽは、家族からまるで存在を忘れられていました。ある日、一羽のはとがやってきて、ぽっぽのエサを食べ始めました。ぽっぽは、それを優しい目で見ていました。すると、よく日、そのよく日も、はとは、毎日ぽっぽのところに行きました。やがて、いつものようにはとが来ると、ぽっぽはいなくて、犬小屋はベランダのすみに置かれていました。

「ぽっぽ、ぽっぽ」と呼んでみると、犬小屋から一羽のはとがでてきて、二羽そろって、楽しそうに大空へ飛んでいく物語です。

私がこの本を読んで、ぽっぽが家族に存在を忘れられていて、かまってもらえないのに、よく耐えることができたなと思いました。私がもし、その立場だったら耐えられないです。私の家にも犬がいますが、ぽっぽのような立場にならないようにしてあげたいと思いました。

『アントナン・カレーム』を読んで
6年　細川　椋汰

このアントナン・カレームは、ヨーロッパを料理の力で感動させた人です。料理の王冠をさずけるならこの人だと、作者の十常アキさんが言っています。この人はパリの孤児でした。努力してすごい料理人になって、僕はすごい努力家だと思います。僕は、この本を読んでこのアントナン・カレームが料理人の中の頂点だと思いました。僕も努力して人のために何かしたいです。

たてわり
2班

小奴可小学校全児童・「たてわり班」ごとに４回シリーズで発表！